

私立 四天王寺大学

取組名称 学生個々に対応したエリア別キャリア支援の強化・推進

取組担当者 人文社会学部 教授・キャリアセンター長 鍋谷 史郎

1. 本学の概要

四天王寺大学は、聖徳太子が593(推古元)年に四天王寺を創建された際、創設された敬田院に起源を求めることができる。敬田院は五重の宝塔を中心とした七堂伽藍であり、人々が仏に帰依し、戒律を守って諸悪をなさず、善行を修め、仏の智慧をさとるところである。すなわち、全ての衆生を救い、真実の自己を追求せんとする大乘仏教の精神を形としたものである。このような敬田院の伝統を現代にまで継続し、1967(昭和42)年4月に四天王寺女子大学として設立された。2008(平成20)年には、現在の四天王寺大学と改称し、人文社会学部・教育学部・経営学部を擁する文系総合大学として、計3,146名の学生が学んでいる。

本学の学園訓において「一 和を以て貴しとなす 一 四恩に報いよ 四恩とは国の恩、父母の恩、世間の恩、仏の恩なり 一 誠実を旨とせよ 一 礼儀を正しくせよ 一 健康を重んぜよ」と明示されており、また、時代の要請に依り、この建学の精神を以下のような人材の育成を教育の目的として掲げることで、聖徳太子の仏教精神を現代社会において生かすための教育を行っている。

- ・己の利のみを求めず他者を尊重し調和する人材
- ・生活の糧を得る「知識」ととどまらず「智慧」による人間の完成を目指す人材
- ・人類愛を体し人種・宗教の枠を越えて我が国と国際社会に貢献する人材

2. 本取組の概要

本学では建学の精神に基づき、深い専門知識や高い教養と道徳性を備えた人材の育成に努めている。加えてキャリア支援を含む総合的な学生支援として、キャリアガイダンスや講座、持続的な就業力育成を目指すキャリア教育科目の単位化及び資格対策講座の実施、学生相談体制の強化等、大学全体で取り組み、学士力の確保に向けた体制を構築し、高水準の就職率を維持

している。しかし、昨今の不況下においては就職率の低下が懸念される。本学ではすでに内定取消者に対して特別支援策を講じるなど、個々の学生の要請に柔軟かつ迅速に対応しているが、今回更に就職率低下に歯止めをかけるべく、新たに本学の立地・学生の居住地を踏まえ、地域性を考慮したキャリア支援(図1)に取り組む。地域的セグメンテーション(図2)に基づく企業訪問・企業セミナー、学生面談、保護者セミナー等を展開することで、学生・保護者・企業・教職員が一体となり実践的できめ細かいキャリア支援が可能となる。

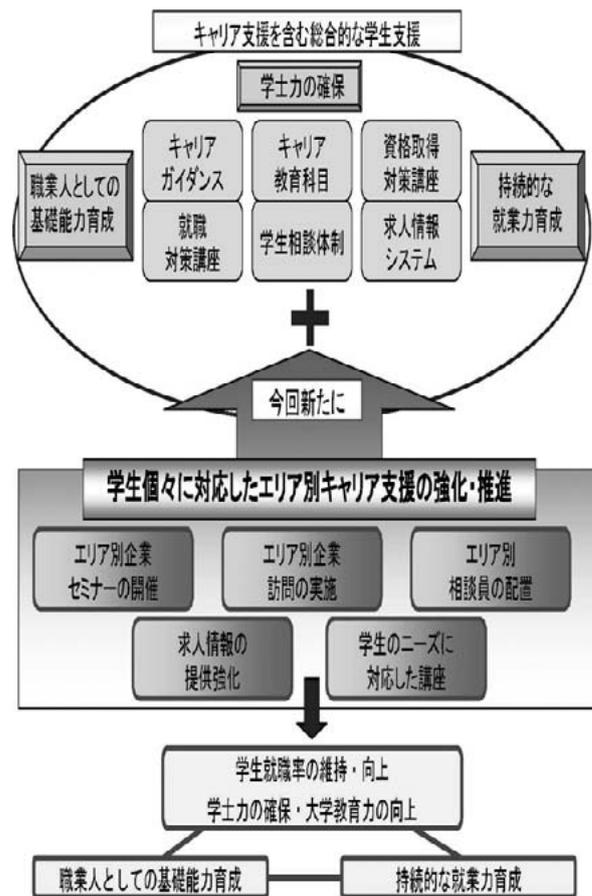
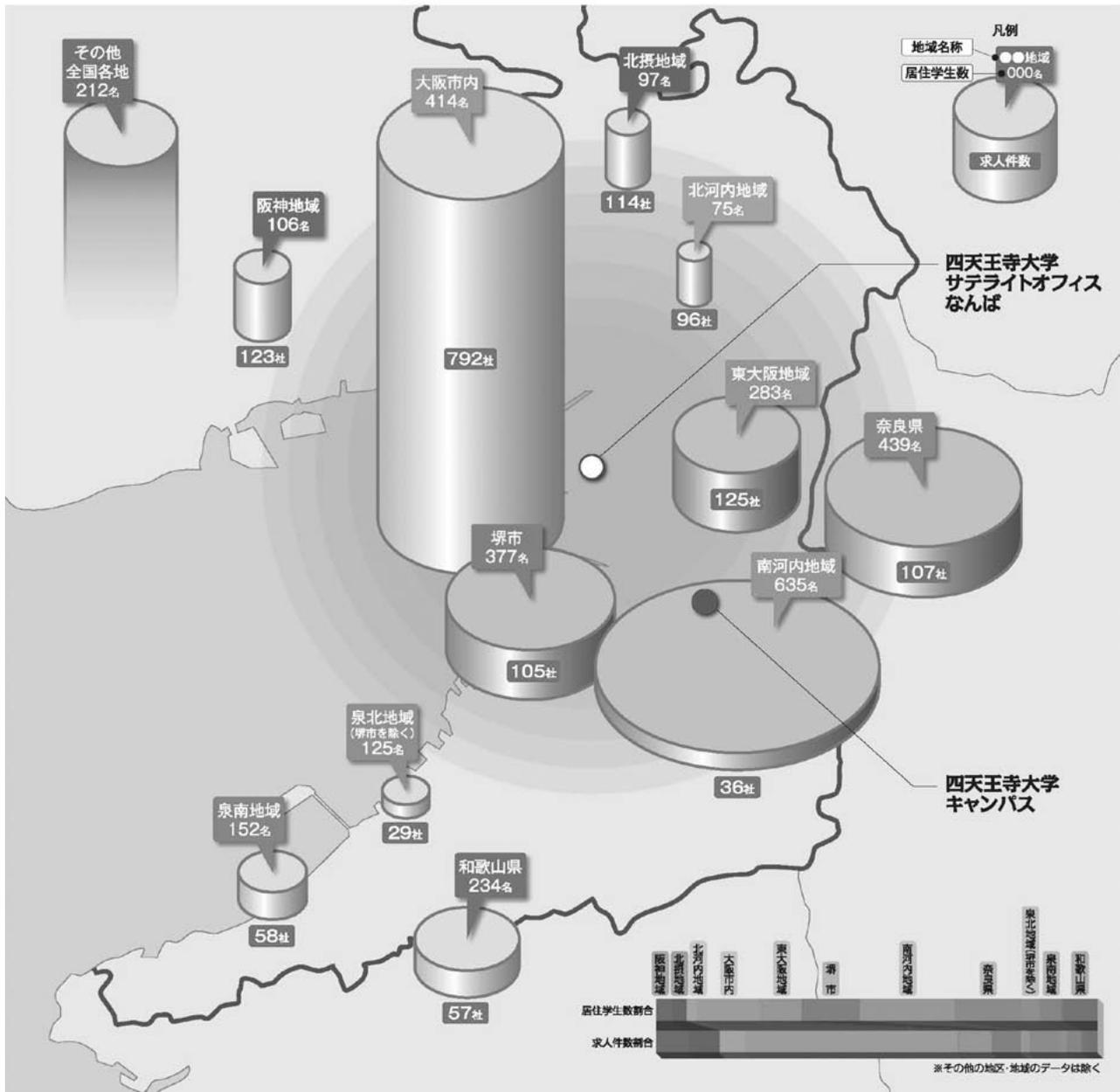


図1 取組概要図

大阪を中心とする四天王寺大学学生の居住地分布及び求人企業分布

[学生数：平成21年5月1日現在の全学生数] [求人企業：平成20年度卒業生に対する求人企業数]



本取組では特に、新たに政令指定都市となった堺市、中小企業を中心に産業を振興しようとしている東大阪地域、南河内地域、奈良県等の求人を開拓し、商工会議所等と連携した地域性重視の企業セミナーを実施するため、エリア別キャリア相談室「四天王寺大学サテライトオフィスなんば」を各地域から見て利便性の高い場所に設置します。

図2 地域的セグメンテーション図

3. 本取組の趣旨・目的・達成目標

本学においては、持続的な就業力を育成する全学共通のキャリア教育科目の開設、キャリアガイダンス・セミナー等の実施により、学士力の確保に向けた体制の充実を図るとともに、本学の地域性にに基づき、「学生個々に対応したエリア別キャリア支援の強化・推進」プログラムを通じた総合的な学生支援により本学の教育力をさらに高めるものである。

本取組では、持続的な就業力及び職業人としての基礎能力の育成をはじめ、現状の就職率維持を目標として、学士力の確保についての視点を踏まえつつ、喫緊の課題である不況下における就職率の低下に歯止めをかけ、その維持向上を図ることを達成すべき目標とする。

学生は、職業人としての基礎能力及び就職活動能力の向上と最新で精度の高い求人情報の取得により、就職活動及び就職採用試験の準備が十分になされ、就職

採用試験の合格率は、向上するが、現在の経済状況が数年続くと想定して、就職率の低下を1年目は2008(平成20)年度の6%以内の低下にとどめ、2年目3%以内、3年目2%以内と歯止めをかけることを数値目標としている。

4. 本取組の具体的内容・実施体制

(1) 取組の具体的内容

現状の就職率維持を達成するため、職業人としての基礎能力及び就職活動能力を高める講座を充実させている。すでに筆記試験対策講座、履歴書・エントリーシートの書き方講座(写真1)を実施した。筆記試験対策講座では、筆記試験のウエートが実質的に高くなる傾向から、実際に出題された問題を丁寧に解説し今後の対策を10コマ(1コマ90分)かけて徹底的に指導した。

履歴書・エントリーシートの書き方講座では、より実践的に文章を作成するために新聞記者を招聘し、具体的な作成方法を学ぶ。講座実施後も添削指導を行い、継続性を持たせた指導を行っている。

同時に堺市・東大阪市等の求人企業を開拓し、各地域の商工会議所等と連携した地域性重視の企業セミナーを実施するために、学生及び企業の各地域から見て利便性の高い大阪市中央区難波にキャリア相談室(名称「四天王寺大学サテライトオフィスなんば」)を開設した。就職活動終盤にさしかかる現在においても多数の苦戦する学生が存在する現状を鑑み、この相談室において未内定者対象の学外企業選考会を求人企業の協力の下実施しており、今後もすべての就職希望者が目的を達せられるべく回数を重ねて実施し続ける予定である。

また、学生個々に対応すべく学生が相談したい時に相談に応じることができる柔軟な相談体制(写真2)、タイムリーな求人情報の提供を迅速化・強化し学生の



写真1 講座



写真2 柔軟な相談体制



写真3 キャリア相談員

動向を的確に把握したキャリア指導により就職機会の一層の向上を図るために、前述の相談室及びキャリアセンター内にエリア別キャリア相談員(写真3)を配置している。

(2) 取組の実施体制

学長を中心とした指導によって、本取組はキャリアセンターが実施運営主体となり、全学科・専攻の教員から組織されるキャリア委員会との協働により実施されることで大学全体の取組としている。また、教務部やエクステンションセンター、学生支援センターといった組織と連携することで、迅速かつ効果的な取組の実施が可能な体制となっている。

5. 本取組の評価体制・評価方法

内部評価については、講座・セミナー参加学生のアンケート調査を元に、評価・理解度・参加率・月別就職率の集計を分析する等最新情報を把握するとともに、大学教育改革支援プログラム推進委員会において、毎年の点検・評価を実施し、PDCAサイクルを機能させて取組の改善も含めた評価を行う。また、外部評価については学外有識者及び企業等の関係者による外部評価委員会を設置する。

6. 本取組の実実施計画等

各種講座、企業セミナー、相談体制及び求人情報提供の強化の効果を実証するため学生の居住地と就職実態の相関やニーズ調査の整備を図り、地区別相談員の設置・エリア別企業セミナーの開催・地域別企業訪問・学生のニーズに呼応した講座等を実施する。その上で学内及び外部評価による検証により、具体的な改善点を洗い出し、現不況下における就職率維持・向上の達成を目指す。

具体的な計画は以下の通りである。

(1) 業種・職種別等就職対策講座の実施

2009(平成21)年10月～12月にかけて業種・職種別等就職対策講座を実施している。これにより、持続的な就業力及び職業人としての基礎能力を育成することで学士力を確保するとともに、少人数で行う業種・職種別の筆記試験対策・エントリーシート対策等、本番を想定したプログラム構成で、より実践的な就職活動能力を高める。

(2) エリア別キャリア相談員(写真3)制度の導入

2009(平成21)年10月よりエリア別キャリア相談員制度を導入し、より地元志向の強い学生のニーズを把握し、より地域的セグメンテーションを意識した企業セミナー・企業訪問等を展開している。これらにより、さらに緻密な求人情報の提供を行い、学生の就職率維持向上につなげる。

(3) キャリア相談室の開設

2009(平成21)年10月から大阪市中央区難波に相談員2名体制でキャリア相談室を開設した。これにより、就職情報・求人情報の提供及び情報交換の場の提供並びに企業等の求人ニーズの調査を行う中継基地としての機能をもたせ、学生の就職支援体制を充実させる。就職未内定者対策として、企業選考会を同室で行っている。

(4) エリア別合同セミナーの実施

地域性を重視して各地域の商工会議所等と連携したものを実施し、求職側と求人側とのより丁寧なマッチングを行う。2009(平成21)年11月より学外にて実施しており、随時実施する予定である。

(5) 取組リーフレットの作成

2009(平成21)年10月に取組リーフレットを作成し、他大学・近隣の市町村・高等学校等に選定取組の内容・経過等をわかりやすいかたちで情報提供するとともに、順次進ちょく状況等を公表することにより大学教育改革の推進を図る。

(6) 保護者対象就職セミナーの開催

就職活動に際して保護者が学生と積極的に関わりを持つこと及び昨今の就職活動の現状を理解していただくことにより、学生・大学・保護者が三位一体となり学生の進路選択の環境を醸成することのみならず安易なフリーター・ニート化を防ぐことを目的として実施する。

(7) 外部評価委員会の開催

年度末に外部評価委員会を開催し、PDCAサイクル(図3)を機能させる一環として、本取組の検証を通じて他大学で行っている手法との比較等を行い、持続的な就業力育成手法の開発及び評価の在り方を開発し、現不況下の緊急対策に留まらず学生の学士力向上のため本取組の改善に生かす。

本取組は、大学教育改革支援プログラム推進委員会による評価及び外部評価に基づき、キャリアセンターが中心となって、キャリア委員会や学内の他部署と連携を図り具体化された本学の事業計画に当該取組が組み込まれるため、財政支援期間終了後も引き続き学生の汎用的技能や態度・志向性の向上が期待でき、学士力の確保に効果が見込まれる取組である。

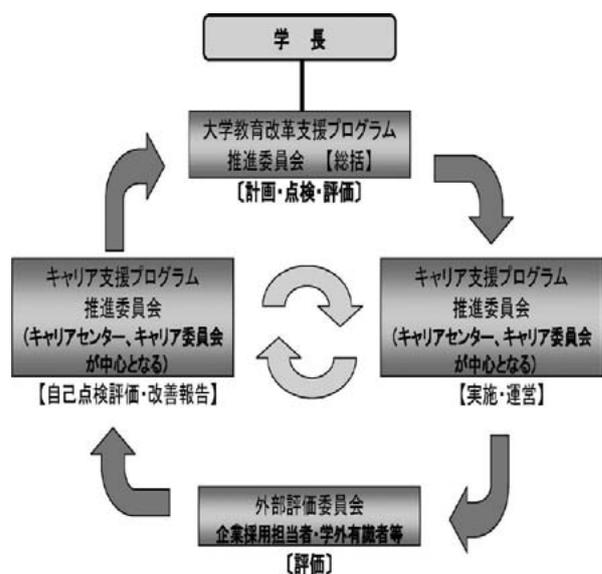


図3 評価体制